



～ 障害者が安心して地域で暮らし続けられるまちに～

## 生きた農業のある都市・練馬で農福連携を推進

と き 平成30年11月8日(木) 午前9時～11時(区長視察日)

ところ 山口トマト農場、社会福祉法人あかねの会「なごみ工房」、  
NPO法人あんずの家「あんずの家」

8日、前川耀男(まえかわ あきお)練馬区長は、区内で進む「農福連携」の現場を訪れた。

区内にある山口トマト農場では、障害者が障害者施設から農場に通い、トマトの収穫などの作業を行う「農福連携」が展開されている。トマト農場を訪れた区長は作業を見学、利用者から話を聞いた。利用者は「自分のやれることがたくさんある。仕事を任せてもらえる」と嬉しそうに語った。農場の山口さんから「真面目によくやってくれている。障害者の可能性を、もっとみんなが知ってくれば」との声が寄せられた。



【農作業する利用者に話しかける前川区長】

農には、障害者の方々が自分の得意分野を活かすことができる、たくさんの作業がある。また、自然の下で働くことで、心身のリハビリになることもある。自分のペースで作業に取り組めることも、精神的に良い効果があるようだ。

トマト農場での作業に引き続き、練馬産の野菜を使って加工品を製造している障害者施設も見学。視察を終えて、区長は「障害の特性に応じた就労支援や暮らしの支援を受けられる、誰もがいきがいをもち、住み慣れた地域のなかで自分らしい生き方ができるまちを実現したい。障害特性に応じた就労支援、農福連携がその一つになるように検討したい」と語った。

### 【農福連携】

農業者と、社会福祉法人やNPO法人などの福祉団体が連携して、障害者や高齢者らの農業分野での就労や生産活動等を支援する取組。担い手の高齢化が進む農業分野と、障害者や高齢者らの働く場と生きがいの場の確保を求める福祉分野の連携は現在注目されており、今後一層の推進を図っていく。

今回、区長が、区内で展開している農福連携の現場を視察した。

山口トマト農場の奥様は、就労継続B型事業所「つくりっこの家」の非常勤職員になってくれるなど、積極的に障害者と係わり、一緒に農作業を行っている。

トマト農場の後に見学した障害者施設「なごみ工房」では、練馬産野菜を使ってのスープづくり、「あんずの家」では、練馬産野菜を使ってのピクルス「ねりピク」の製造を行っている。

### 【障害者施設】

障害者総合支援法に基づいた障害福祉サービス。生活介護、就労継続支援B型などがある。通所、入所があるが、「つくりっこの家」「なごみ工房」「あんずの家」はいずれも、就労継続支援B型の通所事業。障害があり、一般企業等での就労が困難な方や、一定年齢に達している方に、働く場を提供するとともに、知識や能力の向上のために必要な訓練を行う施設。福祉作業所といわれることが多い。



【トマト農場で収穫作業をする利用者】



【収穫した農産物の加工作業を見学する前川区長】

#### 【区内の農福連携の状況】

障害者施設の利用者が、農園に出向き、収穫作業を行う

障害者施設において、練馬産の野菜を使用したピクルスや野菜スープ作り

障害者施設において、練馬産の果物を加工したジャムやお菓子作り

障害者施設で農家から野菜を仕入れ、移動販売を行う

農福連携にて生産された商品をマルシェにて販売

マルシェ:練馬産の農作物や関連商品を販売する販売会

#### 【練馬の都市農業】

練馬区には208.95haの農地が残っており、その割合は東京23区にある農地の約4割を占めている。

大都市東京にありながら、これほどの農地が保たれ、市民生活と融合する形で農業が営まれている練馬区は、世界的にも極めて稀な都市であり、利便性の高い都市での市民生活と農が共存する暮らしがあることは、大きな魅力となっている。

#### 【問合せ】

練馬区 障害者施策推進課 就労支援係 電話 03-5984-1387